

## 日新林業 株式会社

創業 昭和22(1947)年10月8日  
代表者 代表取締役 又賀 航一  
社員数 20名(男16名 女4名)  
本社 島根県松江市殿町383

### 事業内容

国産材・外材の原木調達、山林管理経営、合板・製材品の仕入れ・販売、合板二次加工

### 勤務地(採用エリア)

境港市、飯石郡

### 採用区分

新卒採用 キャリア採用

### インターンシップ・キャリア

有 日新グループとして1日・5日・Webの3種を実施。詳細や申込はマイナビ・リクナビから。

### 採用担当者からあなたへ

日新グループの中では少数精鋭の会社ですので、多様な業務に携わることができます。現在、山林部、加工部、原木部で人材を募集しています。さまざまなことに興味を持ち、積極的にチャレンジできる方、木材を通じてものづくりや社会に関わりたい方はぜひお問合せください。



### 採用に関するお問い合わせ先

0859-44-3311

公式サイトは  
こちら

リクナビは  
こちら

マイナビは  
こちら



## 山から工場へ、バトンをつなぐ人たち

### 高性能林業機械を操作し、効率的な伐採作業に従事

祖父が、山の職人とも言われる「山師」だったこともあり、小さい頃から山が日常の遊び場だった森山さん。季節によって表情を変え、さまざまなお花の姿や鳥の声を見聞きできる環境が心地よく、自然の中で働きたいという想いから林業を仕事を選んだ。

地元の森林組合などで約25年間林業に従事。以前の職場ではチェーンソーを使った伐採がメインだったが、転職後は高性能林業機械を使った作業が大幅に増えた。主に操作するのは、伐採から枝払い、玉切りまでを一貫して行えるハーベスター重機。「最初は15~20メートルもの長い丸太をバランスよくつかむのが難しく、大変でした」と苦笑いするが、今では別の機械の技術講習受講が楽しみに。「できることがどんどん増えて楽しいです」

高性能林業機械には運転席に空調設備があり、体への負担も減った。でも一番好きな作業はチェーンソーでの伐採だという。「木の種類や幹の大きさ、立地などに応じてくさびを打ち、数十メートルの木を伐採できた時の気持ち良さは圧巻です」



山林部  
森山 信洋さん(41)  
2024年入社



① 日新グループが保有する自社林の面積は東京ドーム約210個分 ② 8000キロ離れたカナダから、境港や浜田の港に原木を積んだ船が到着する ③ カナダの取引先訪問時の集合写真  
④ 「山仕事から貿易実務までさまざまな業務があるのが当社の特徴。好奇心の強い人に来てほしい」と鈴木専務

# 09

LEADING COMPANY

## 日新林業 株式会社

● 木材卸売／山林経営／合板卸売／合板二次加工



加工部  
平野 智啓さん(34)  
2023年入社



広大な自社林を保有する《日新林業株式会社》。山林部が実践しているのが、循環型林業経営だ。山林部では苗木の植付けや下刈りを外注し、除伐などの森林整備、利用できる大きさに成長した木の伐採までを行っている。一昨年からは高性能林業機械を複数台導入し、従来委託していた伐採業務も社員が中心となつて從事。業務は多岐にわたる。「山林地などから調達。顧客からの要望をダイレクトに伝え、森林の様子などを確認するため、担当者は定期的に現地に足を運ぶ。鈴木専務も年に数回はカナダへ渡航するという。さらに、グループ会社が製造した合板を加工する加工部や、海外から仕入れた広葉樹材や規格外の合板を販売する製材・合板部なども抱えており、業務は多岐にわたる。「山の仕事から貿易や買い付け業務までさまざま。現場での作業も機械化によって以前より大幅に省力化されています。門戸が広い会社だと自負しています」と鈴木専務。資源としてのありがたみを重視し、地球環境に配慮したSGECC認証・PEFC認証・FSC認証木材の積極的な使用を進めている。「工場に丸太が届くのは当たり前じゃない。手間と時間がかけ、苦労して育て上げた大切な資源だということを常に忘れないでください」と向き合っていきたいですね」

## 受け継がれてきた大切な山の資源価値をつなげ、高めて、生かす

《日新林業株式会社》は、国内外からの原木調達の他、日新グループの自社林約1000haの山林経営、合板に付加価値加工を行う部署があり、木に関わる多彩な事業で活躍する人材を求めている。

事。循環型林業サイクルがより円滑に回るようになった。「PDCCAサイクルを行つ中で、難しかったC(確認)やA(改善)が行いやすくなりましたね」と鈴木専務は語る。

一方、県境や国境を越えたスケールの大きな業務を行っているのが本部だ。輸入材はカナダの大手サプライヤーから、国産材は中国・九州地方などから調達。森林の様子などを確認するため、担当者は定期的に現地に足を運ぶ。鈴木専務も年に

数回はカナダへ渡航するという。

さらに、グループ会社が製造した合板を加工する加工部や、海外から

仕入れた広葉樹材や規格外の合板を

販売する製材・合板部なども抱えており、業務は多岐にわたる。

「山の仕事から貿易や買い付け業務までさまざま。現場での作業も機械化によって以前より大幅に省力化されています。門戸が広い会社だと自負しています」と鈴木専務。資源としてのありがたみを重視し、地球環境に配慮したSGECC認証・PEFC認証・FSC認証木材の積極的な使

用を進めている。「工場に丸太が届くのは当たり前じゃない。手間と時

間をかけ、苦労して育て上げた大切

な資源だということを常に忘れないでください」と向き合っていきたいですね」